
諮問の背景及び検討の進め方の ふりかえり

諮問内容(令和6年11月29日)

持続可能な循環型社会の実現に向けた施策 及び ごみ処理施設整備のあり方について

(諮問事項)

1 ごみ減量及び資源循環施策のあり方について

「京・資源めぐるプラン」の中間見直しに当たって、脱炭素化や循環経済等の持続可能な社会の構築に向けた国内外の潮流を踏まえて、施策等の強化・見直しが必要

2 ごみ処理施設整備のあり方について

令和18年度末頃に東北部CCが耐用年限を迎える。将来に渡って安定的にごみを処理できる体制の確保に加え、資源循環・脱炭素化に貢献するため、今後の施設整備のあり方を検討する必要がある。

5つの論点

① 資源循環施策の強化

- ごみ量(焼却量、市受入量)は大きく減少しているものの、使い捨てプラスチック排出量などの個別の2Rや、プラスチックごみや食品廃棄物などの分別・リサイクルに関する指標では課題があるため、資源循環の観点から対策強化を図る。
(資料1別紙「プラン指標一覧」参照)
- ➡ 再資源化に係る官民の役割分担や、回収拠点の在り方などを改めて整理したうえで、資源物回収拠点の拡大、新たな資源回収品目の検討、リユース・リペアの促進策、食品リサイクルの促進策等の検討

② 脱炭素化の視点からの強化

- 2050年カーボンニュートラルに向けて、3Rリニューアブル方策による削減効果を考慮したGHG排出量の目標値の設定など、廃棄物・資源循環分野の脱炭素化の視点をより強化したプランとする。
- ➡ 「廃棄物・資源循環分野における脱炭素化に向けた検討」の算定結果を基に、使い捨てプラ対策(強化)、衣類対策、生ごみの再資源化対策などの必要な対策等を検討

5つの論点

③ 今後の施設整備に関する事項

- 東北部CCが令和18(2036)年度頃に耐用年限を迎え、後継となる次期CCが必要
- ➡ 次期CCの整備に当たっては、資源循環・脱炭素化の観点が求められるほか、バイオガス化併設の有無、エコランドの延命、ライフサイクルコスト、災害対策等について検討
(並行して、ごみ処理の広域化や持込ごみ受入体制等についても市で検討)

④ 評価指標の目標設定等

- 中間見直し時に検討することとなっていた「使い捨てプラスチック排出量」、「バイオプラスチック製容器包装割合」の目標設定を検討
- 「レジ袋使用量」や「市受入量」等の既存目標についても、実績・実態を踏まえて、再検討

⑤ 資源循環・脱炭素化に向けた方針

- 今後は、従前のごみ減量・リサイクル・経費節減だけでなく、資源循環・脱炭素化への貢献、気候変動に伴い高まる災害リスクへ備え、人口減少及びごみ減量に伴うごみ処理の広域化・集約化・多種多様な地域の循環システム構築などの要請への対応、さらには高齢化や担い手不足へ対応など多様な社会的な側面を考慮する必要がある。
- こうした中で資源循環・脱炭素化を推進し、着実に成果を上げるための方針をまとめる。

プラン中間見直しの内容・範囲

今回はプランの中間見直しであるため、施策強化を中心としつつ、高齢化や担い手不足などの社会変化や要請がある中で、資源循環・脱炭素化を推進していくための施策や施設整備に係る基本的な考え方についてもプランに追記する。

< 中間見直し後のプランの構成イメージ(網掛け箇所: 見直し内容) >

【現行プランの構成】			【見直し後のプランの構成】	
計画期間	2030年度	⇒	計画期間	2030年度
基本理念 (あるべき姿)	2050年度	⇒	基本理念(あるべき姿)	2050年度
			資源循環・脱炭素化に向けた方針	2050年度
数値目標	2030年度	⇒	数値目標	2030年度
具体的施策	2030年度	⇒	具体的施策	2030年度
ごみ処理施設の整備・運営	2030年度	⇒	ごみ処理施設の整備・運営	2040年度

審議の進め方(検討体制)

京都市廃棄物減量等推進審議会(審議会本会)

各部会からの報告を受け、答申のとりまとめを行う。

- 令和7年秋頃 答申①「ごみ減量及び資源循環施策のあり方について」
(→答申①を受けて市が「京・資源めぐるプラン」を改定(令和8年3月頃))
- 令和8年春頃 答申②「ごみ処理施設整備のあり方について」
(→答申②を受けて市が「次期クリーンセンター整備方針」を策定(令和8年春頃))



循環型社会施策推進部会

検討事項

「ごみ減量及び資源循環施策のあり方について」

- 論点①「資源循環施策の強化」
- 論点②「脱炭素化の視点からの強化」
- 論点④「評価指標の目標設定等」
- 論点⑤「資源循環・脱炭素化に向けた方針」



次期CC整備等検討部会

検討事項

「ごみ処理施設整備のあり方について」

- 論点③「今後の施設整備に関する事項」
- 論点⑤「資源循環・脱炭素化に向けた方針」



各部会の検討状況を随時共有し、両輪で検討

スケジュール

